

児童の実態

素直で意欲的に友達と協力しながら活動に取り組むことができ、互いに学び合おうとする姿勢がある。一方、自ら課題を見付け、自ら判断し、学ぼうとする気持ちが薄いときも見られる。

学校の教育目標

考える子・思いやりのある子・健康な子

地域の実態

- ・住宅街である。
- ・保護者は教育活動に対して協力的である。
- ・地域は教育活動に対して協力的である。

南小岩第二小学校の「総合的な学習の時間」の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人・もの・ことに関わる探究的な学習を通して、目的や根拠を明らかにして課題を解決し、この地域の人・もの・ことに対する人々の情や熱を感じながら、自己の生き方を考えることができるようになるための資質・能力を育成する。

- (1) 課題の解決に必要な知識・技能を発揮するとともに、地域のよさや特徴に気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。
- (2) 地域の実社会・実生活・SDGs等の問題から課題を見出し、その解決に向けて情報を集め、考えたことを根拠をもってまとめ、相手や目的に応じて、表現する力を身に付ける。
- (3) 主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために、自ら社会に参画できる態度を育てる。

各学校で定める内容

	目標を実現するにふさわしい探究課題 (領域) 【配当時間】	探究課題を解決することを通して育成する資質・能力		
		生きて働く知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3年	○総合って何だろう【5】 ○特産農産物（小松菜）とその魅力を広めようとする人々とその活動（地域）【20】 ○江戸川区の魅力を伝えよう【10】	【概念】 地域社会にはいろいろな方が住み、魅力や特徴があること（多様性）	【課題設定】 日常生活の中から課題を設定する。 【情報収集】 地域の人との関わりから情報を収集する。 【整理分析】 情報を比較したり関連付けたりして考える。 【まとめ表現】 相手や目的に応じてまとめ、表現する。	【自己理解・他者理解】 友達の考えを受け入れ、意思決定をする。 【主体性・協働性】 目標をもって友達と協働して課題を解決する。 【将来展望・社会参画】 自分の生活を見直し、考えたことを実践する。
4年	○みんなが安心して暮らせる街へ（防災）【35】	【概念】 ・生活と実社会の問題はつながりがあること（関連性） ・実社会の問題は周りの人との関わりながら解決しなくてはいけないこと（連携性）	【課題設定】 問題状況の中から課題を設定し、見直しをもって計画を立てる。 【情報収集】 手段を選択し、情報を収集する。 【整理分析】 必要に応じて考えるための技法を用いて分析する。 【まとめ表現】 相手や目的に応じて分かりやすい手段を選び、まとめ、表現する。	【自己理解・他者理解】 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自己の行為について振り返る。 【主体性・協働性】 課題の解決に向けて地域の活動に自ら参加し、協力する。 【将来展望・社会参画】 将来を考え、希望をもって建設的な行動を試みる。
5年	○命を守る減災（防災）【35】	【概念】 ・生活と実社会の問題はつながりがあること（関連性） ・実社会の問題は周りの人との関わりながら解決しなくてはいけないこと（連携性）	【課題設定】 問題状況の中から課題を設定し、見直しをもって計画を立てる。 【情報収集】 手段を選択し、情報を収集する。 【整理分析】 必要に応じて考えるための技法を用いて分析する。 【まとめ表現】 相手や目的に応じて分かりやすい手段を選び、まとめ、表現する。	【自己理解・他者理解】 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自己の行為について振り返る。 【主体性・協働性】 課題の解決に向けて地域の活動に自ら参加し、協力する。 【将来展望・社会参画】 将来を考え、希望をもって建設的な行動を試みる。
6年	○My Dream 実社会で働く人々の姿と自己の将来（キャリア）【35】	【概念】 責任や愛着が人を動かし、喜びを伴って社会を形成すること	【課題設定】 問題状況の中から課題を設定し、見直しをもって計画を立てる。 【情報収集】 手段を選択し、情報を収集する。 【整理分析】 必要に応じて考えるための技法を用いて分析する。 【まとめ表現】 相手や目的に応じて分かりやすい手段を選び、まとめ、表現する。	【自己理解・他者理解】 異なる意見や他者の考えを受け入れ、自己の行為について振り返る。 【主体性・協働性】 課題の解決に向けて地域の活動に自ら参加し、協力する。 【将来展望・社会参画】 将来を考え、希望をもって建設的な行動を試みる。

学習活動 ・探究課題は学年で統一し、具体的な学習課題は児童とともに各学級で創作する。 ・児童の主体性を重視するために、地域探検や地域の人材や財との出会いを大切にする。 ・単元のゴールイメージや学習課題は児童と話し合って決める。	指導方法 ・児童の課題意識が連続発展できるような支援を重視する。 ・地域も含めた協働的な学習活動を重視する。 ・探究の学習過程（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現）が繰り返されるような単元づくりを行う。 ・資質・能力面での教科との関連的な指導を行う。	指導体制 ・学年間で学級の学習状況などを定期的に共有できるようにする。 ・校内研修等を行い、総合的な学習の時間の進め方について共通理解を図る。 ・単元で活用した資料や情報、指導案等は単元ごとにまとめて引き継ぐ。 ・専科教員の副担任制度を活用するなど、校内の支援体制を確立する。	学習の評価 ・一人一冊のファイル（ノート）を購入し、ポートフォリオを活用した評価を行う。 ・単元ごと、年度末に指導計画の評価を行う。
各教科との連携 ・カリキュラム・マネジメントを意識する。考えるための技法の活用等を具体的な手だてとし、各教科の見方・考え方を生かし、各教科で身に付けた資質・能力がおのずと発揮されるようにする。 ・資質・能力面での教科との関連的な指導を行う。		地域との連携 ・地域のゲストティーチャーとの連携を図るために十分な打ち合わせをする。 ・地域の人材バンクの作成及び活用をする。 ・学校だよりや学校ホームページを通して、児童の学習活動について発信する。 ・学校行事やPTA行事、地域行事との連携を図る。	

年間指導計画				《仮単元名》		時数	○予想される活動		●GTや体験活動			
月	4	5	6	7	8・9	10	11	12	1	2	3	
学年												
第3学年												
35時間	《総合って何だろう》 〔5〕 (単元を進めながら体験的につかむ)	《ひろげよう！わたしたちの江戸川小松菜！》〔20〕 地域の特産品の小松菜のよさ、そこに関わる人々の思いや願いにふれ、自分にできる小松菜を広める活動を考え実行する。 ○小松菜栽培と世話をする。 ○地域の方にインタビューをする。							《江戸川区の魅力を伝えよう》〔10〕 江戸川区に関わる歴史や伝統、施設について学習し、江戸川区の魅力について考える。 ○社会の授業で学んだ場所や社会科見学で訪ねた施設について、模造紙やプレゼンテーションソフトなどにまとめて発表する。			
第4学年												
35時間	《みんなが安心して暮らせる街へ》〔35〕 身近な自然災害等の危険について関心をもち、その対策を調べたり、事故の多い危険な場所を地図でまとめたりする活動を通して共助の精神を養い、社会の一員として生活する態度を養う。 ○学校の安全性、備蓄品について調べる。 ○地域の危険な場所を調べ、地図にまとめ、危険を知らせるために発表する。											
第5学年												
35時間	《命を守る減災》〔35〕 日本で起きる自然災害について関心をもち、その被害や影響などを調べたり、実際に体験したりする活動を通して共助の精神を養い、社会の一員として生活する態度を養う。 ○身近な環境問題、原因や様々な機関の取組について調べる。 ○持続可能な社会の実現に向けて、自分の考えや取組について発表する。											
第6学年												
35時間	《MY DREAM》〔35〕 職業にかかわる本を選ぶなど、様々な職種の特徴ややりがいなどに気付き、「働く」ことに対しての自分の考えを明らかにして、自己の生き方を考える ○働く人々の存在を知る ○世の中のいろいろな「仕事」について調べる ○働くことの意味や責任を理解する ○自分のよさや将来像を自覚する ○未来に向かって今の自分にできることを考える（例：中学生に話を聞く等）											
評価の観点	★知識・技能 ★思考・判断・表現 ★主体的に学習に取り組む態度											

＜評価の観点＞ 育成すべき資質・能力

知識・技能	何を理解しているか。何ができるか。問題解決や探究活動を通じて、課題（学習対象）に関する概念的知識を獲得したり、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けたりして、探究的な学習のよさを理解する。
思考力・判断力・表現力	理解していること・できることをどう使うか。実社会や実生活の中から問いを見だし、探究的な見方・考え方（※）を用いて、自分の課題を立て、情報を集め、整理分析してまとめ、表現することができるようにする。
学びに向かう力・人間性	どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか。実社会や実生活の中から問いを見だし、主体的・協働的に問題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に社会の活動に参加し、次の課題に取り組みようとする態度を育てる。

※探究的な見方・考え方
「各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けること」

＜令和6年度の主な活動＞

年	学習活動
3	「総合的な学習の時間ってなんだろう」「ひろげよう！わたしたちの江戸川小松菜！」「江戸川区の魅力を伝えよう」
4	「みんなが安心して暮らせる街へ」
5	「命を守る減災」
6	「MY DREAM」

《共通理解しておくべき留意点》

○総合的な学習の時間は探究的な活動でなければならない。
（課題意識をもつ →情報の収集取り出し →情報の整理分析 →表現まとめ →課題意識をもつ…(繰り返し)【探究的な学習過程】）
○単元の中に必ず協働的な学習活動を取り入れる。
○言語による分析、まとめ、表現の活動を取り入れる。情報は、単元の中で、情報の収集や発表・まとめの場面で必要に応じて入れる。
○江戸川区では、総合の授業時数が70時間のうち35時間は読書科と関連のため、単元の精選が必要。総合の時数カウントに注意。
※行事の読み換えはできない。総合的な学習の時間の特性を考えた上で、他教科との関連などを考慮して単元を決める。
※指導要領の目標に則さない内容は総合的な学習の時間には入らない。（下記参照）

- ・現実の問題解決にならない課題
- ・スキル習得を目的とした情報教育（タブレットの操作指導）
- ・体験のみの国際理解（外国語活動）
- ・教科・領域の補充（学級開き、学年集会は特別活動の位置付け）
- ・行事の準備（行事は特別活動）
- ・制作活動のみ（げいじゅつ祭、二小まつりなど）[探究的な学習に位置付ける必要がある。]